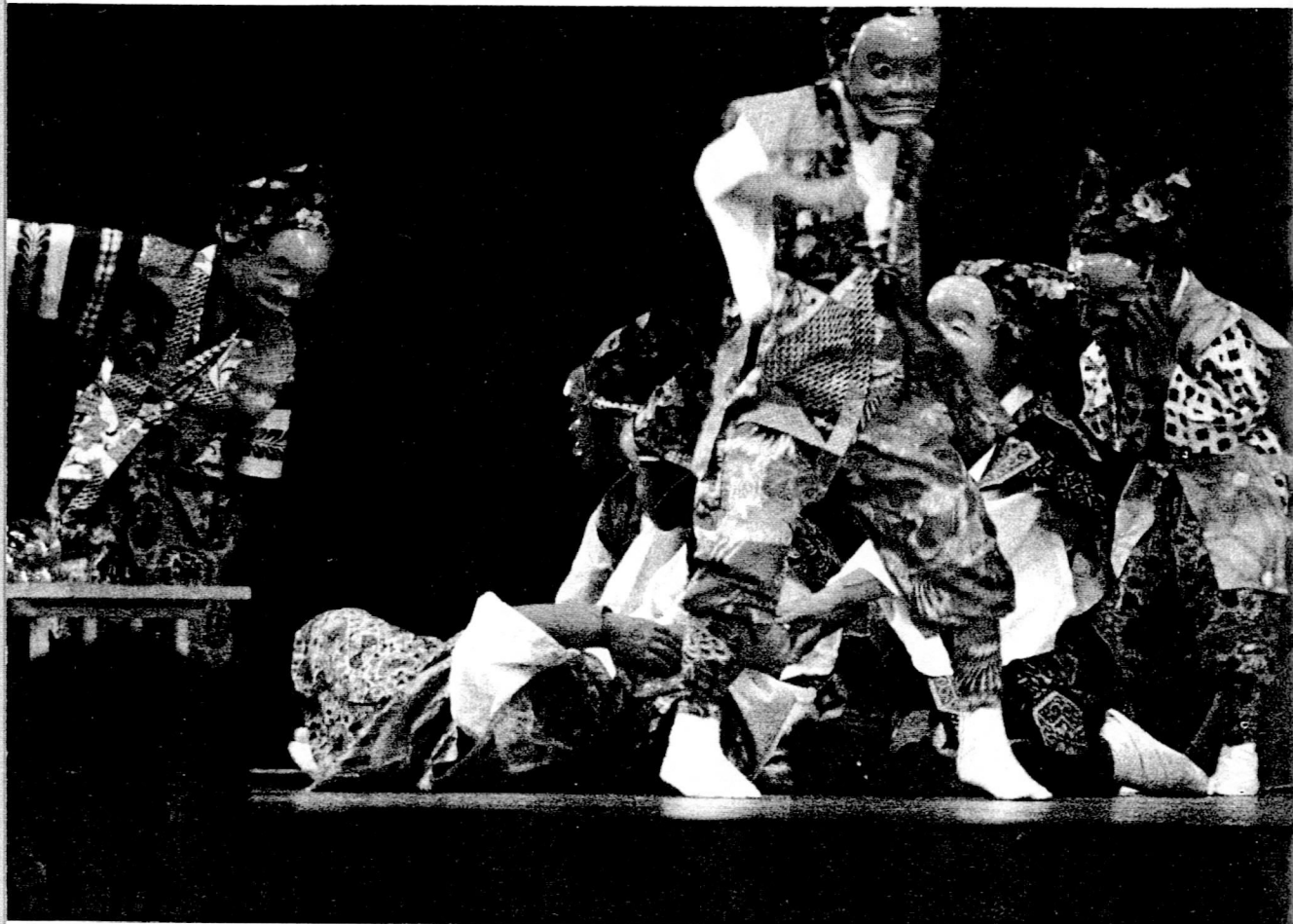


かながわの 民俗芸能

第 51 号



えびす様 (三浦いなりっこ保存会)

神奈川県民俗芸能保存協会



目次

永田衡吉会長のご逝去を悼む
副会長 後藤 淑……………3

特集 第二十六回神奈川県民俗芸能大会
民俗芸能大会を観て
寒川町文化財保護委員 広田 富治……………4

田名八幡宮の獅子舞について
田名八幡宮獅子舞保存会前会長 篠崎 和輔……………6

守るぞ、いなりっこ
三浦いなりっこ保存会事務局長 湊 不二雄……………7

倉見囃子保存会について
○少女ばやし 寒川町立旭小学校六年 長崎 真樹……………8
○おはやし雑唱 倉見囃子保存会副会長 猪上 操……………9

民俗芸能大会演目……………10

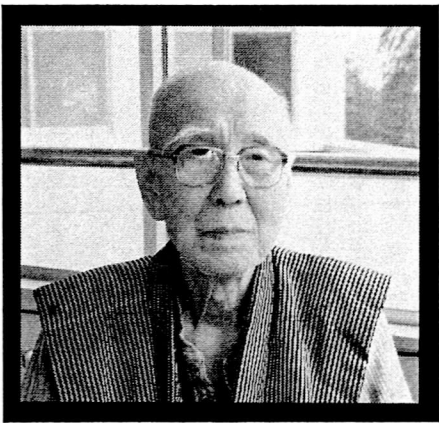
民俗芸能大会アルバム……………11

会員だより
祭囃子の採譜 西沢 正……………14

ニュース・伝言板……………16

永田衡吉会長のご逝去を悼む

副会長 後藤 淑



このたび、本協会会長永田衡吉先生ご逝去の報に接し、あまりの突然のことに、ただ茫然とする思いでした。

先生は明治二十六年生まれというご高齢ではありましたが、お元気なご様子とのことでしたので全く残念でなりません。

先生は協会創立の発起人として当初からその運営に寄与され、初代故季家孝会長に代わり昭和五十三年から十二年間にわたり会長として会の発展にご尽力されました。その間には県民俗芸能大会の開催、各種啓発事業の実施などを重ね、広く県民の理解と協力を得られました。今日の協会があるのも先生のご指導の賜物と存じます。

さらに、ご功績を振り返ってみますと、神奈川文化賞の受賞あるいは

叙勲(勲五等瑞宝章)という賞歴に表徴されますように、神奈川県及び日本の民俗芸能の保存と育成に大きな仕事をされました。それは単なる保存にとどまらず、「ささら踊」(相模人形芝居)など今まで廃絶していたものを掘り出し復活させるという豊かな知識と優れた識見を必要とする並々ならぬ仕事だったと言えますよう。

二十周年を迎えた本協会が、ますます基盤の充実強化に向けて邁進する時に、先生のようなかけがえのない方を失うことは、誠に大きな損失であり、惜しみても余りある思いです。

謹んでご冥福をお祈り致します。

訃報

本協会会長永田衡吉氏は平成二年二月二十七日午前十一時五十五分、小田原市小八幡の医療法人尽誠会山近病院で急性肺炎のため死去されました。

永田氏は大正六年、早稲田大学文学部英文科を卒業、同九年東京大学美学及美術史選科を修了。母校の早大演劇協合理事、神奈川県文化財保護審議会委員などを歴任、また本協会にあっては創立以来、会の発展のために活躍され、昭和五十三年からは会長を務められました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

(事務局)

民俗芸能大会を観て

広田 富治

平成元年十一月十九日(日)、第二十六回神奈川県民俗芸能大会が寒川町と共催で寒川町民センターで行われた。

当日の出演団体は、平塚市の相模人形芝居前鳥座、相模原市の田名八幡宮獅子舞保存会、寒川町の一之宮木遣り保存会、秦野市の八重山民俗舞踊研究会、大井町の足柄あそびの学校、寒川町の倉見ばやし保存会、寒川小学校児童と露木キミ子、三浦市の三浦いなりっこ保存会、横浜市の神奈川朝鮮歌舞団の十団体で、その熱演ぶりはすばらしかった。

まず前鳥座の「三番叟」から始まったが、前鳥座は昭和五十七年二月に県の無形民俗文化財に指定されている。四之宮で上演されるようにな

ったのは江戸時代末期と言われているが、現在「絵本太功記」をはじめ、十三のレパートリーがある。婦人の加入によって今日では二十四名の座員を数え、他の座に比べ平均年齢が若いとのことである。相模人形は三人遣いの人形で、それぞれの分担によって一つの仕事を表現するが、それがよくわかり、足を引き受けている遣手は動きに合わせるが大変なことが理解できる。

「増補生写朝顔話・宿屋之段より大井川まで」は前鳥座の演目の中の代表で、盲目となった朝顔(深雪)が探し求める恋人宮城阿曾次郎とも知らず大井川の川止めとなり、擦れ違いに終わる哀れさが観客の心を打つ物語であるが、太夫と三味線と人

形遣手が一体となった涙を誘う名演技であった。特に私の実父が義太夫好きで、よく朝顔日記を語り、子供の時には文句を覚えてしまうほどだったので懐かしい思い出がある。

次の演目は田名八幡宮獅子舞保存会の「獅子舞」である。相模原市には田名以外に、下九沢の御嶽神社、大島の諏訪神社に歴史のある獅子舞が残っている。その中でもこの田名の獅子舞が最も古い歴史を持っていると言われている。明治、大正期には中断していたが、昭和四十九年の保存会設立により復活し、それ以後毎年九月一日の田名八幡宮の例大祭に獅子舞が奉納されている。舞台上は笹竹四本を立て注連縄を張り、中に土俵のように丸く仕切り、その中で雄獅子、雌獅子、子獅子が唄に合わせて踊った。そして天狗が観客席に降りてきて一人一人に握手していたが、お面のきびしい表情と比べて、微笑ましく感じられた。天狗は会場の関係上、特別に二本歯の高下駄を履いたが、本来は一本歯なので余計に不安定で動作が大変だろう。

次は地元寒川町一之宮の木遣り保存会による「手古舞木遣り・鎌倉木遣り」である。若松さまよ庭にや鶴亀 五葉の松

○本町二丁目の糸屋の娘 姉は二十一 何もがはたち 何もとほしさにごりようがんかけて 伊勢に七たび熊野へ三度 芝のあたごさんにあれさ月参り

と一句一句を引きのばし繰返しウケテが調子、相の手をつけて合唱を繰返す。そして最後に「それでは皆さんお手を拝借」と言ってお手拍子で締めのおめでたい時には欠かせない祝い唄である。

寒川町邦楽会は原真澄氏を中心としたお琴の会であるが、琴は邦楽に欠かせない楽器であり、そのゆかしい演奏を寒川に広め、町の文化を高め、心豊かな地域と社会を築く目的で結成された。演目の「あゝ梶原城跡」は、正治二年鎌倉勢との戦いで破れ館は破壊され、現在町の南部一之宮に城跡として残っている梶原城の栄枯盛衰の感慨を偲ぶ歌で、作詞は鈴木みつぐ氏、作曲が館岡一郎氏で、原真澄氏が琴の合奏のためにアレンジしたものだ。一番と三番の歌詞を紹介すると、

もあり、私たちも子供の頃よく歌ったものだ。

次の演目の八重山民俗舞踊研究会による民俗舞踊は、沖縄県八重山地方の自然の美しさと厳しさの中で育まれ伝えられてきたものだ。初めに鳩間島に伝わる「鳩間中岡」は豊年祭りの時に、そして「六調節」は祝いの席で宴たけなわになると出る踊りである。頭に冠をつけ、手にささらを持って、三味線・太鼓に合わせて比較的静かに踊る。次は黒島に伝わる豊年祭の時の踊りで、笠を持つ「笠踊り」、鎌を持って踊る「コムツサー」、片面張りの太鼓を持ってコミカルに踊る「タイラク」が演じられた。

足柄あそびの学校は開校して十五年になるそうだが、「ぶち合わせ太鼓」、「八丈太鼓」などを法被を脱いで汗をかきかき太鼓に挑戦している姿は、遊びではなく玄人になりきった態度で、頭の下がる思いで感服した。

寒川の倉見ばやし保存会の祭囃子は江戸時代末期に、倉見東部地区に疫病や凶作が広がり、人々が生きる希望すら失いかけていた時に日吉神

社に祈りの太鼓を打ち鳴らし村人に伝授したのが起源と言われている。昭和五十三年に保存会が結成され、倉見神社の祭礼や盆踊り大会、文化祭などの行事に参加し、地域住民の親睦と青少年の健全な育成を目的として発展してきた。当日の出演者は十歳から十六歳までのかわいい女の子ばかり十六人で、法被、鉢巻姿に大太鼓、笛、小太鼓など皆の息が合っていて印象的だった。

露木キミ子先生指導の寒川小学校五年生女子のまりつき唄は、昭和五十年の民俗芸能大会出演がきっかけとなり町内の子供達により伝承されている。

○ひとつふたつおんのみ 大山街道飛ぶ鳥は 羽が十六目が一つ 一の木 二の木 三の木桜(以下略)

童唄として「かながわのうた五十選」の一つとなっているが、江戸時代にまりつき、お手玉、手合わせ唄として歌われてきており、当時農家の子供たちが子守りしながら庭先で遊び、歌ったと言われている。また、茅ヶ崎、平塚など大山街道沿いで歌

われているが終わりのほうの歌詞は場所によって違う。

三浦いなりっこ保存会の「えびす様」はひょっとこやえびす様などの個性豊かな面をかぶり、笛や太鼓に合わせて演じる子供版の面神楽であるが、手足の動きと唄の演じるコツツという実に妙味があつてすばらしかった。

最後の出演の神奈川朝鮮歌舞団は朝鮮の文化について日本人に理解と興味を持ってもらい、友好親善を深めることを目的とした民族芸能団体だ。アリアンの唄やきれいな民族衣装での舞踊等は大変優雅ですばらしく、芸能大会のフィナーレを飾った。

時のたつのも忘れたかのように観賞していた町民センターいっばいの観客は、終了後も感銘してしばし動かなかつた。主催者や関係者の皆さんご苦労様。この日のすばらしい民俗芸能を観て、ますます郷土の民俗芸能の保存発展に努める決意をした。(寒川町文化財保護委員)

田名八幡宮の獅子舞について

篠崎和輔

この獅子舞の起源は、一般に江戸時代後期と考えられていたが、八幡宮に残る記録には「九月一日ハ大祭ニシテ、獅子舞祭ト唱フ。慶安二年二月二十日、正八幡宮ヲ本社ニ遷宮ス。其ノ年九月一日獅子舞祭ノ式ヲ行フ」とあり、言い伝えによれば、元官幣大社鹿島神宮では、毎年一月一日に、亀の甲を焼き、その亀裂の状態と、壺の中の水の状態によってその年の農作物の豊凶を占い、その結果を神託と称し、狩衣姿の『鹿島事觸』が、全国に觸れ歩いたとい（正月三が日に）それが田名に居を構えていた在地武士に獅子舞を教え、それに根づいて、雨乞い踊りに近いものになったとの言い伝えもある。

最初は田名十一部落の持ち廻りで順番制をとっていたが、明治三十年

頃、当番部落に悪疫が流行し、踊り子全員が罹病したことから「神のたたりである」との風評が流れて、翌年の当番部落は踊り子の引き受け手がなく、以後立消えとなり、大正初期に一度復活したが、大正十二年の関東大震災に遭遇し、中断のままで日中戦争を迎え、昭和十六年遂に太平洋戦争に突入、獅子舞の中断は必然的となっていた。

終戦を迎えた昭和二十年から昭和四十年は、今更いうまでもなく、世相史は四十二年が再起完了のスタートと伝えている。

昭和四十九年四月十五日、田名八幡宮氏子総代会は、住民の期待にこたえて、獅子舞の復活を決議した。附帯条件として無理でもこの年の九月一日に復興披露をするということとであった。

り、そしてその初発は凡て江戸時代

であるという。下九沢御嶽神社に現存する「日本獅子舞由来」という秘巻にあり、三頭の構成は密教儀軌の日月星・仏法僧・三宝荒神の、「三」によると明記してあるという。そしてこれを、父母子・雄雌などと分けているのは、俗解である。また腹太鼓を天笠震旦の渡来品と断じ、これを腹部につける意味、万灯を須弥壇の表徴、獅子舞を十二法とするのは一年の十二月、神楽の十二座・薬師如来の十二神将の法制などというものは、凡て密教の大義に則する構成であるという。ただし、獅子舞歌の初句の盲点とされている「京よりのくだる唐絵の屏風」は、石清水を意図したことは確実であるとい、江戸初期から関東一円の農村に広がったものであると教えられた。そして、娯楽と青年戒行を兼ねて、祭俗とし採用されたものだとある。

これについて田名八幡宮の昔獅子舞をやった古老に聞くと、我々がやるときに、その当時の踊りの師匠は必ず「獅子舞をやる者は、童貞に限る」ときつくいわれたと語るが、関連して考えると確かにそうと受けと

められていいと思える。

小学生五年生以上、中学生、若い

社会人と、養成に支障が出るために練習生を替えて来ることに十五年現在定着をみているのは社会人である。その成長株の集団と、別に数年前から仲間入りしてきた、最初からの社会人と対比して、或は十五年前から社会人を募集した方がよかったか？と考えられるふしも無くはないが、一長一短それぞれに長短所がみられる。特によく言われる出演者に対する通念であるが、たしかに日本の歴史の上からは芸人に対する評価として「河原乞食」という侮蔑的な言葉で考えられたことがあったらしいが、今日に至れば西洋流にアーティスト(Artist)とし、一般には芸術家としてあげられて当然であると思われてならないし、そのことの必要度は、少年、青年、壮年の別なく考えておくべきで重大なことのひとつであると強く推定する。そして、この根本理念は、是非大人の仲間に表示範してほしいと思っているし、一般人達も是非強く意識されて、美しい調和の中に、日本人自身の残した、日本人自身のための、貴重な文化財

当時の田名は農村地帯が中心で、戸数約千戸で、その大部分が所謂八幡宮の氏子であったが、その全部が復活に対する希望者と考えてもいくらかの割合であった。その根本的な理由は、戦乱が収まったの土の香への帰結であったと思われる。

しかし、四十年の歳月は総てのものを忘れ去らせたといっても過言ではなさそうだった。一つ一つのハドルを越えて行くたびに、その障害の多さに驚かされたものである。

まず、古典的芸能に対する我々の不用意さである。そのことを予期して県の民俗芸能保存協会長永田先生にお話を承わった。且て劇作家として知られた先生の深い教養と、当時の文化財保護委員の座間美都治先生に予想される問題点と、それに対する処理の仕方、等々半日の話し合いを基盤に、スタートは切られたのであったが、当時の県教育庁の熊谷肇氏のご協力は、過去の経験者の発掘から、指導の依頼に至るまで一切の面倒を見ていただいたことが忘れられない。

さて、困難点であるが、まず第一に踊りの動作だが、指導者自身が完全には思い出せず練習期間の後半にいたって漸くまとまったこと。また歌詞の中には土俗語もあるとかで、何だか分らないものをそのまま覚えるむずかしさと、二十四節に亘る長い原文であったこと。(現在は、上演時間の関係で、ピック・アップしたものを常用している。)第二は仮面の大部分が塗りの剥落、頭髪は跡形すらなく、衣類・旗さし物もなに一つ使えるものがなく、笛・太鼓、その他の小道具全部が新調しなければならなかったこと、等々今にして思えば、よくも乗り越えたかとも思える程であった。

全には思い出せず練習期間の後半にいたって漸くまとまったこと。また歌詞の中には土俗語もあるとかで、何だか分らないものをそのまま覚えるむずかしさと、二十四節に亘る長い原文であったこと。(現在は、上演時間の関係で、ピック・アップしたものを常用している。)第二は仮面の大部分が塗りの剥落、頭髪は跡形すらなく、衣類・旗さし物もなに一つ使えるものがなく、笛・太鼓、その他の小道具全部が新調しなければならなかったこと、等々今にして思えば、よくも乗り越えたかとも思える程であった。

なお獅子舞については、『日本の音をつくる』の著者、東大講師の柴田南雄先生は、筆者に「この獅子舞唄のリズムの根底を流れているものは、田植唄であり、作業唄である。」と教えられている。

田名八幡宮の獅子舞の起こりについて、最初に当地に伝わる、伝説について述べたが、永田先生のお説によると、江戸初期から現われた「一人立ち二頭獅子舞」とい、(神奈川県を南限とし、武蔵国の西部地区から流入した風流獅子舞の系統であ



の保護育成にご協力願える神奈川県人であってほしいと念じている。
(田名八幡宮獅子舞保存会前会長)



守るぞ！いなりっこ

不二雄

「いなりっこ」とは、古くは、稲荷信仰の行事の一つでありまして、農村の豊作祈願や、漁村の豊漁、商売繁盛を祈る庶民信仰、稲荷講が訛って、「いなりっこ」になったといわ

親しまれていました。

昔は、二月の初午近くになると、各里ごとに、宿(練習場所)を交代で決め、夕方から稽古をし、二月の十日、十一日には、各里のお稲荷社の前に舞台を建て、夜の更けるまで踊り、宿に当たった家でごちそうになりたりするのを楽しみにした行事でしたが、昭和三十五年ごろから、すたれていき、三十七年には殆んど消えてしまいました。しかし十年後の四十七年ごろから「いなりっこ」復活の声が上がり、その年、県立三浦青少年会館が開館し、昭和四十八年二月十一日に復活第一回のいなりっこ発表会が関係者の協力により開かれました。

その後、いなりっこ保存会が海南神社青年会、神楽師会、楽囃会の会員の協力により結成され、各地域ごとでなく、全地域の子供が集まり、県立三浦青少年会館で稽古と発表会が開かれるようになりました。数年間は一月の中旬ごろから稽古し、二月十一日に発表会を開いていましたがその後春休みを利用して、四月の発表会になりました。

「いなりっこ」に参加している子供

達幼稚園児から中学生まで、二月中頃から四月の第一日曜日の発表会まで二十数回の稽古を重ねます。復活後十数年間は、参加する子供も三十人ぐらいいましたが、ここ数年は地元三崎の出生児減などで、十数人と減ってしまい、後継者不足に悩んでいます。

稽古は、夜六時半から八時半までの二時間で、神楽師会の会員の指導のもとで一人一人細かく、和やかなムードの中にも厳しく、稽古をしています。稽古だからといってテープなどは使いません。楽囃会の会員が交代で太鼓や笛を受け持っています。今では演目も初めの頃よりだいぶ多くなっています。前年の第十七回発表会では、「国がため」、「種まき」、「天狐の舞」、「三人和合」、「えびす様」、「湯立」、「千鳥」、「黒面」と八つも演目が揃いました。それに、「いなりっこ」ならではの「茶番」というものがあります。これは落語のように落ちのついた劇です。面もかぶらず、太鼓、笛もあります。顔におもしろおかしく化粧をしてセリフでやるものです。

今日まで参加した子供達は、百人

ぐらいいです。このような、素朴な郷土芸能を、私達は、なんと少しでも守り、育成しなければならぬと思います。多くの人達に見てもらいたいという気持ちでいっぱいです。

先日の寒川町での芸能大会の「いなりっこ」はどうでしたか？子供達はいたいへん喜んでいました。私達はいなりっこ保存会は、地域社会の生活の中から生まれた素朴な芸能が、今日の文化遺産として評価されるように「いなりっこ」の継承を続けるとともに、さまざまな出会いやふれあいを通して、住んでいる町への郷土愛、上下の友達関係、情操面もそな

倉見囃子保存会について

○少女ばやし

寒川町立旭小学校 六年 長崎 真樹

わたしの入っている倉見ばやし保存会は、一年生から高校生ぐらいいでいます練習にきている人は四十人ほどいます。指導の先生は四人で熱心に教えてくれます。たまに高校生の

えた後継者づくりに励んでいきたいと思っています。今年も、二月十三日より、毎週火曜日、木曜日、土曜日と稽古を重ね、四月一日(日曜日)の県立三浦青少年会館での発表会まで、元気ががんばっています。

これからも、子供達とともに、郷土芸能の灯、「いなりっこ」を守っていきます。(三浦いなりっこ保存会 事務局長)

○おはやし雑唱

猪上操 一

○いにしえが見ゆる祭の笛太鼓

江戸時代末期に発祥して明治初年に改作補修完成された倉見ばやしは、戦中も途絶える事なく受け継がれて連綿として現在に及んだことは、誠に意義深く、この先人の尊い遺産をしっかりと守って後世に伝えねばならない。

- 掌開けば汗まみれなる囃子肝臓
- 稽古囃子踊づくたびに大声す
- 笛稽古終る少女ら唇なめて

今はすっかり子供達が囃子連の主役になって定着してしまっただ倉見ばやし、それも殆ど女子で占められて男子の影が薄れてしまったことは極めて残念である。しかし乙女ばやしとして一味違った貴重な存在を示

している。

- 大鳥居落るはやしの餅かな
- 海までの道の三里を笛太鼓
- 神輿くる囃子車を先だてて
- くら闇に絡むや神輿笛太鼓

倉見ばやしは倉見神社の祭礼はもちろん盆踊り風揚げ大会など夏季からの出番は頻繁である。特に盛大にして勇壮な寒川神社の浜降祭には午前零時より神輿と共に暗闇の中を茅ヶ崎海岸まで延々七時間の長きに渡って囃子を叩き続け、いやが上にも伴奏として祭を盛り上げるのである。

- 駈けだして囃子車を迎えたり
- 乙女ばやしテレビカメラに

睨まるる



で練習します。寒川神社の浜降祭や盆踊り風揚げ大会など、たびたび出演しますが、倉見神社のお祭が近づくと何時もより一層しんけんになって汗を流すほど練習に打ち込みます。暗くなっても皆なかなか家へ帰りません。家から迎えにくる人もいます。昨年わたした達の町で開催された十一月十九日の神奈川県民俗芸能大会には、わたした達の倉見ばやしを代表して出演しました。男子が数人しかいないために全員女子で出ました。上手な高校生たちがその時都合がつかなくて出られないで残念だったようです。前日に舞台でリハーサルしたのですが、あがってうまく出来ませんでした。いよいよ当日控え室で待つ間少し練習しましたが体がかたくなっていました。皆の顔も、こわばって緊張しているようでした。大人のひとが出番を告げてきたので細い通路を太鼓やバチを持って皆でどやどや舞台に運びました。幕の外には見物客のざわめきがしていました。幕があいて笛の合図で夢我夢中で叩きました。何時もよりテンポが早くなって、あがってしまいました。それでもだんだん落ちつき客席の顔

第二十六回 神奈川県民俗芸能大会 演目
寒川町 民俗芸能大会

もう遠い昔日になってしまったが昭和二十五年七月NHK早朝ラジオから(早起鳥という番組)倉見ばやしが放送され、また近くは六十一年正月倉見乙女ばやしがテレビ東京より全国放映されたのである。我々の太鼓連が確固たる保存会を結成してよりまだ十数年であるが幸いにも背後の温い協力賛同により経済的にも恵まれたなごやかな会を運営することができ、また爽やかな太鼓のひびきの中に豊かな感性の子供達を育成することができ得るのは誠によろこばしい限りである。

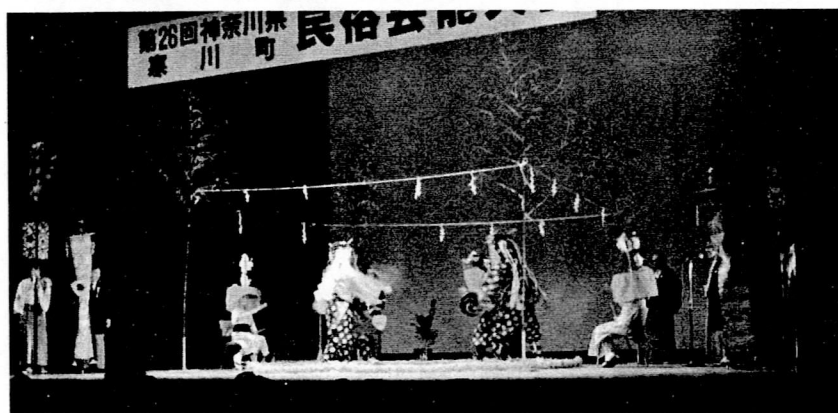
○後世に残す囃子の音にをり

(倉見囃子保存会副会長)

民俗芸能大会アルバム



▶相模人形芝居 前鳥座



▶田名八幡宮獅子舞保存会



◀一之宮木遣り保存会▶



第一部

1 三番叟

相模人形芝居 前鳥座

平塚市

2 『増補生写朝顔話 宿屋の段より大井川まで』

相模人形芝居 前鳥座

平塚市

(休憩)

第二部

3 獅子舞

田名八幡宮獅子舞保存会

相模原市

4 『手古舞木遣り』・『鎌倉木遣り』

一之宮木遣り保存会

寒川町

5 『あゝ梶原城跡』・『寒川音頭』

寒川町邦楽会

寒川町

第三部

8 祭囃子

倉見ばやし保存会

寒川町

9 『大山街道飛ぶ鳥はくまりつき唄』

寒川小学校児童と露木キミ子

寒川町

10 えびす様

三浦いなりっこ保存会

三浦市

11 歌と踊りのアンサンブル

神奈川朝鮮歌舞団

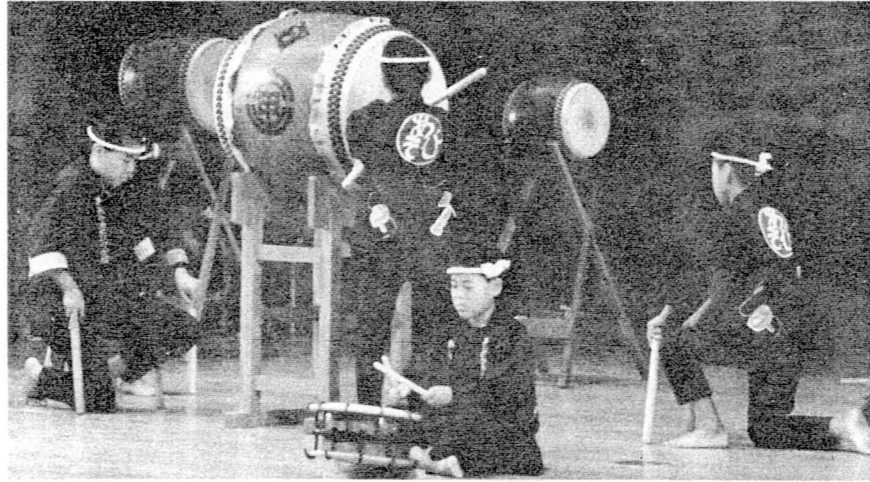
横浜市

(休憩)

6 『鳩間中岡』・『六調節』・『笠踊り』・『コームツサー』・『タイラク』 八重山民俗舞踊研究会 秦野市

7 『ぶち合わせ太鼓』・『八丈太鼓』・『はね娘踊り』 足柄あそびの学校 大井町

▶ 足柄あそびの学校



▼ 倉見ばやし保存会



▲ 寒川小学校児童と露木キミ子



◀ 寒川町邦楽会 ▶



▶▶ 八重山民俗舞踊研究会 ▶



神奈川朝鮮歌舞団



会員だより

祭囃子の採譜

西沢正

私は数年前から祭囃子に興味を持ち、関東地方、特に神奈川県内のお祭を探し歩いて祭囃子を録音して採譜している者ですが、昨年当協会に入会させていただいたのも、祭囃子に関する情報を得たいためでした。おかげさまで、海南神社の夏祭の見学会（平成元年7月18日実施）に参加することができましたが、この見学会の講師の貝瀬さんは地元のお祭青年だった由で、非常に興味深いお話を聞かせていただきました。現場見学の際、貝瀬さん御自身が、「木遣り」を一曲唄ってみせるなど楽しい見学会でありました。

ところで祭囃子の採譜を始めてはみたのですが、やってみるとなかなか大変な作業であることがわかりました。つづつ楽譜に落としていくわけですが、用紙は笛のための五線と、縮太鼓・大太鼓・鉦用に各一本の単線を三本ならべて引いたものをコピーして使っています。笛の記譜法ですが、篠笛は半音程づつ違ったいろいろな調子のものであり、音の低い（長さの長い）方から一本、二本・・・というふうに呼ばれていて、多くの笛では歌口側の端に漢数字で書いてあります。東京では六本と七本が、神奈川県では二本から五本迄が多く使われているようです。また、同じグループでは同じ調子の笛を使っている場合が多いのですが、そうでない場合もあり、実際の演奏を聞いてみると、笛の吹き手が交代した時にガラッと調子が変わってしまうような事もあります。従って、笛を実音で五線譜に落すその時使っている笛の調子に応じて、例えばハ調で書いていたり嬰ハ調で書いていたりというようなことになって不合理なので、プラスチックのチューバなどのように移調して記譜することになっています。こうすると、五線の同じ位置にある音譜ほどの調子の笛を使っても同じ指使いで吹けばよい

ことになります。

次に太鼓や鉦の記譜法ですが、これはオーケストラのドラムの譜のようになり、一本の線に音譜をのせて書いています。パチを持つ手が右手か左手かということ、ビデオで録画で撮らないかぎりテープで聞いてはわかりませんので、区別して記譜していません。また、間をとるために軽くパチを皮に当てる奏法とか、フチ打ちなどの音は、オタマジャクシの頭を×印にして注記をして区別しています。鉦の場合も、残響の多い「チャン」という音と、残響の少ない「チキ」という音をはっきり区別して演奏している場合には、それを区別して記譜するようにしています。さて、このようにして採譜する上で、いろいろとむずかしい問題があります。

1. ホールの舞台での演奏の場合、ホールの残響が多いと太鼓の細かいリズムが明瞭に分離できない。この点では、多少雑音があっても屋外で録音したものがよい。
2. シチョウメなどで、二つの縮太鼓が別のリズムを打つ場合、二つの縮太鼓が別のリズムを打つ場合、二つの縮太鼓の音質が同じなため、分離して聞きとれない。
3. 笛の吹きそこないや、太鼓の叩きそこないがある。鉦の場合など、気が向いた時に打つだけという場合すらある。
4. 笛の低音域の音は音量が小さいので、太鼓の音にマスクされて聞きとれないことが多い。
このような問題を解決するには、同じ演奏を何回か録音して、比較しながら採譜するしかないのですが、笛の奏者が未熟で何回録音してもキチンと演奏してくれないような場合はお手上げです。さて、祭囃子の伝承は口承伝承によっている、楽譜は無い場合が大部分のようです。この口承伝承の方法は、笛の場合なら「トヒャラヒャラ・・・」、太鼓の場合なら「テンテケツク・・・」というような文句（唱歌ショウガ、又はジゴトなどと呼ばれる）を覚えさせて教える方法がとられていて、楽譜がある場合もこれらの文句をそのまま仮名文字で書き下した仮名譜が多く、五線譜が

ニュース・伝言板

新規会員募集

民俗芸能を実際に行っている人、また民俗芸能に興味をお持ちの人等協会では、多くの方々への入会をお待ちしております。会員の皆様も勧誘に御協力下さい。なお、協会の事業としては、県民俗芸能大会の開催、各種芸能見学会、講演と映画の会、会報の発行等を予定しております。入会ご希望の方は、氏名、住所、職業、電話番号を明記の上、会費（年額一口個人千円、団体二千円）を納入してください。なお、納入方法については、事務局にお問い合わせ下さい。

会費の納入について

当協会の事業の円滑な運営のためには、会員の皆様の会費納入についての御協力がぜひとも必要です。会費は原則として、各年度五月末日までに納入することになっております。

協会行事報告

○全国民俗芸能大会の見学会

期 日 平成元年11月25日（土）
場 所 （財）日本青年館
概 要 この全国民俗芸能大会は文化庁企画で毎年催されており今回で39回目を数える。

この見学会は昨年度に引き続き会員からの要望により実施。参加者数38名

今回は開演前に解説書を配布し、自由見学の形で行った。
演目は鶴鳥神楽（岩手県）・徳山のヒーヤ踊り（静岡県）・奈良豆比古神社の翁舞（奈良県）・津田の盆踊り（徳島県）・徳之島の歌と踊り（鹿児島県）。

○講演と昔の小田原囃子のレコードを聴く集い

日 時 平成2年3月4日（日）
14時～16時

会 場 小田原市中央公民館

講 演 祭囃子のさまざま
— 小田原囃子を中心として —
講 師 樋口 昭氏

概 要 小田原市教育委員会および小田原民俗芸能協会の後援、また小田原囃子多古保存会の協力を得て実施。

小田原囃子を中心に現在の他の地方の祭囃子との比較や昔の小田原囃子のレコードによる比較などの講演となった。参加者125人。

編集後記

永田衛吉会長が突然死去され、本号においてその訃報をお届けしなければならぬのは誠に残念なことです。謹んでご冥福をお祈りいたします。
第二十六回神奈川県民俗芸能大会

は神奈川県教育委員会、寒川町教育委員会、当協会の主催で行われました。今回は大会特集号をお届けします。お忙しい中を原稿をお寄せいただきました皆さまにお礼申し上げます。

また、本号に久しぶりの投稿がありましたのでお届けします。編集部では会員の方々の投稿をお待ちしていますので、日頃の活動状況などお気軽にお寄せください。

「かながわの民俗芸能」第51号
平成2年3月31日発行
編集 横浜市中区日本大通り33
神奈川県教育庁社会教育部
文化財保護課内
神奈川県民俗芸能保存協会
事務局 ☎(201)一一一(代)
発行 神奈川県民俗芸能保存協会
印刷 港栄印刷株式会社
☎(333)八八一(五代)